

背景（本学のこれまでの取り組み）

特別支援教育に関する教職員等の資質向上事業「広大免許法認定講習」（平成24年度～令和元年度）
 発達障害に関する教職員の専門性向上事業（平成25年度）
 発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業（平成26・27年度）
 音声教材の効率的な製作方法等に関する調査研究（令和元年～現在）

各事業からの知見

- ・ハンズオンによる研修は満足度が高く効果があること
- ・学校の教員は資質能力を向上させたいと望んでいるが多忙化の中、十分対応できないこと
- ・読み書き等のアセスメント及びICTの活用法が十分に行き渡っていない学校が多いこと

実施内容

特支学校特別支援教育Co.，小学校教員，保護者，大学教員等連携空間を超えて自立活動の授業に関わるICTの活用指導やその他の専門的指導，読み書き等の実態把握や評価を実施

ねらい

小学校教員のハンズオンによる研修効果
 指定校の児童により良い指導を実施
 大学教員が自立活動の指導に関わることによる実践力向上
 遠隔指導を実現するための「遠隔連携システム」の構築

1年目（2021年度）

実施内容

検証方法

- 機能性**：遠隔連携システムを利用して指定校と本学とが連携し、実態把握・指導および評価，会議等が十分に機能するか？
- 実行性**：多忙な小学校教員が現実的な負担で運用できるか？
- 内容の精選**：遠隔授業に適した指導内容は何か？
- 技術移転**：遠隔指導に慣れた大学教員から小学校教員への遠隔指導ノウハウの転移
- アプリの開発・評価**：遠隔評価用読み書きアプリの開発・評価
- 遠隔ビデオ通信による読み書きの評価**，指導等が対面並みの機能を持ちうるか，対面との比較による長所や配慮点を，指定校の教員および児童を対象とした各指導回での面接および質問紙調査，チェックリスト評価
- 遠隔連携システムを1年間運用して**，指定校教員自身の負担感および管理職の視点から見た負担について面接および質問紙により評価
- これらの評価により機能性・実行性を備えた遠隔連携システム構築**
- 内容の精選，技術移転，アプリ開発・評価については**，遠隔指導日の授業の観察記録と各授業事後の面接，および指定校の教員のパフォーマンス評価を実施



通級等指導者と大学教員の協働による滴下・波紋モデルの実施・検証。

- 第1回遠隔指導研究会報告会の開催（2022/1/9）
- 報告書（PDF）の公開（2022/4）

2年目（2022年度）

他の小学校への遠隔指導の実践
 滴下・波紋モデルの実施・検証

機能性，実行性，内容の精選，技術移転，アプリの開発・評価の視点で整理・評価



- 第2回遠隔指導研究会報告会の開催（2023/1/）
- 報告書（PDF），評価アプリの公開，（2023/4）

※評価アプリは有料で公開し持続可能性を高める。

国内の学校で一般化することの可能性を整理して提案